

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。

めざせ、均等待遇、なくそう差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

熊本地震ボランティア報告

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3655
16年5月24日(火)
・Fax 095-828-1953

おはようございます
今回の未来は、郵政ユニオン九州地本、熊本地震災害ボランティア第一陣として参加した福岡中央郵便局支部、田尻地本書記長の報告を掲載します。

4月14日、地震発生日

今回の熊本地震は、福岡でも震度5弱と、久しぶりに大きな揺れを感じた地震でした。

発生直後、熊本が震源と聞き、早速熊本の組合員や元組合員へ電話をするも電話は不通です。熊本地方では猛烈な揺れだった、とテレビから情報が流れましたが、連絡が取れないジレンマに焦りました。結局、携帯アプリ「LINE電話」が一番早くつながり、皆の無事を確認することができました。
非常時の連絡体制の確認が大切な、と改めて思いました。

5月8日、災害ボランティア

高速道路などインフラの回復が少しづつ進んだ連休明けに、元組合員で町議会議員の佐野氏から、家の片づけを手伝ってほしいところがある、と依頼がありました。そこで5月8日の日曜日に現地に行き、地本の災害ボランティア第一陣として、活動することになりました。



当日は、早朝に福岡市から車で出発しました。熊本に近づくと、ブルーシートに覆われた屋根が多くなっていき、高速道路も段差が激しくなってきました。福岡ではわからなかった地震の凄さが伝わってきます。9時過ぎに熊本県上益城郡甲佐町に到着。さっそくお手伝いをする家に向かいました。周辺にはブロックが倒れ、柱一本で何とか支えられている場所、道路に

ひびが入り通行できない所もありました。現場では40代50代の女性3名と男性が片づけをされています。お話を聞くと、高齢のお父さんとお母さんが居住されていたが、地震で被災し住めなくなり、片付けなければならぬ、との事でした。

私たちは、二班に分かれ、落ちた瓦を瓦礫置き場までもっていく作業や、住めなくなった家を解体するため、家の中にある家財道具を外に出し分類し、処分するものを瓦礫置き場までもっていく作業をやりました。

ゴールデンウィークの最終日といってもかなり暑い日が続いていました。重たい、きつい、熱いと、かなり過酷な作業です。なかなか片付かない家の荷物に、徐々に気力も失せていきます。

しかし、自分たちは、何のために来たのか、ここの住人は、住む家もなく、これからどうしていくのか、将来が分からない中、作業されているの・・・と考えたとき、この作業が被災



者の生活再建に少しでも役に立てば、という気持ちで、やっていたように思います。作業が終わって、家の人から「ありがとございます。ありがとうございました」と、お礼を言われたとき、疲れも吹っ飛んだような気がします。

今でも将来が見えない中で生活をされている方が、まだまだたくさんいらっしゃいます。私たちが災害ボランティアで、お手伝いに行き、少しずつ片付いていくことで、元気づけられる事が出来るのではないのでしょうか。

今後もボランティアを継続的に続け、一人でも多くボランティアに参加していかなければと感じました。

支援活動の継続を呼びかけます

自治体によれば、各地から災害ボランティアが来られています。連休後は応募される方が減り、必要とする数が確保できていないそうです。宿泊場所を自前で確保しなければならぬこと等から、一度に長期で行くことは困難が伴います。しかし土日を利用して、日帰りでも災害ボランティアに行くことはできます。

5月14日には全労連九州ブロックも、ボランティアの共同センターを熊本に立ち上げました。ボランティア活動は、一人でも一日でも可能です。支部で同行者を募ることもできます。ぜひご協力お願いします。尚、長中局支部が取り組んだ緊急カンパは、16日に全労連を通じて熊本県労連に届けました。今後も募金活動を継続して行います。



期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。